

20. 労働組合

北海道において、気象官署の職員が組合を結成したのは昭和21年6月13日と記録されている（北海道労働運動史による）。当時の正式名称は全国気象職員組合北海道地方協議会で、執行委員長は札幌の多賀将（のちの海洋気象部長）であった。これを機として、道内各官署に相次いで組合支部が誕生したが、札幌支部長も当初は多賀が兼務していたらしい。

昭和22年、有名な2.1ゼネストの試練を経て、執行委員長は伊東令慈へと引き継がれ、以後、伊東はその指導の立場にあって“旧全気象”時代の大半を送ることになるのである。同年11月から北海道地方協議会は北海道支部に、各支部は分会とそれぞれ改称した。これより先、22年4月の団体協約の締結により、組合は中央、地方で気象経営協議会、人事委員会に参画するなど、その権利を広げていった。

全気象北海道支部は昭和22年、燃料手当と越冬準備費を要求して、その年の10月末、北海道地方労働委員会に調停を申請し、年の暮れを徹して交渉が行われたこともあった。明けて23年には、すでに前年から次第に顕著になり始めていたGHQを背景とする組合権利の制限、職階級制度の導入及び2月からの機構縮小と人員削減などの動きに抗議した全気象は、単一組合としては全国初の単独ストライキを3月に行っている。その後も国家公務員法の施行、マッカーサー指令に基づく7月31日の政令第201号による団体交渉権、罷業権の停止及び関連の国公法の改正等が相次ぐ中で昭和24年を迎えた。

この年、職員団体登録制、団体協約締結権の停止を定めた人事院規則が制定され、定員法の施行による行政整理が本格化するころには、全国各労働組合の闘争はし烈を極め、国内世情も騒然となり、多くの事件が続発した。北海道でも組合の意志とは別に、2名の職場放棄者が出たのもこの年の春である。同年7月、従来の職員組合を全気象労働組合と改めているが、意識的に人事院規則による登録を拒み、最後まで登録の承認はなかった。職員の大量整理、組合幹部の解雇、激しい活動の中で顕在化した中央指導部、組合員内の信条と姿勢の相違などが、急速に組織の連帯を弱め、ついには25年末の中央大会を最後に、26年春にかけて中央・地方ともにその機能を停止し、組合は自然解散の道を歩むことになった。

これまでの経過で特筆されることは、寒冷地手当・石

炭手当の制度化である。昭和21年秋から北海道全官公労働組合協議会が提唱し、22年4月に結成した全官公職員組合寒冷地給付対策協議会は、関係官公庁行政機関の理解と協力を得て、大蔵省、後には人事院・国会等にも工作活動が続け、手当支給の臨時的措置が講ぜられるようになり、さらに昭和24年からは恒久的の制度として法制化させ、今日に及んでいる。この間、官も共済組合から越冬資金の貸付措置を実現させ、気象台としても寒冷地、積雪による地域等級区分の資料提供などに協力した。また、組合の道支部は関係者の理解を得て、執行委員 原頭証を事実上、半専従的に東京に駐在させ、気象の専門的立場から協議会の活動と法制化達成に大きく貢献している。

昭和27年ころから、札幌では全国組織再建の準備会に職員代表が出席するなど組合再建の兆しもあったが、旧全気象当時の体験と一見ラジカルな活動に対する印象が再建の動きを鈍らせた。身近な職場の問題を採りあげて、札幌管区気象台職員組合を再組織したのは、翌28年の半ばころである。29年には浦河測候所職員組合が結成され（12月25日に登録）、札幌とともに全国気象職員組合協議会に加盟する一方、道内の各官署に組合設立を呼びかけていたが、昭和32年4月13日に至り、ようやく単一組織としての北海道気象職員組合の結成にこぎつけた（届出5月7日、登録日不明）。この組合には、多くの官署が加入し、官署ごとに班を設けた。当時の執行委員長は三本木亮である。

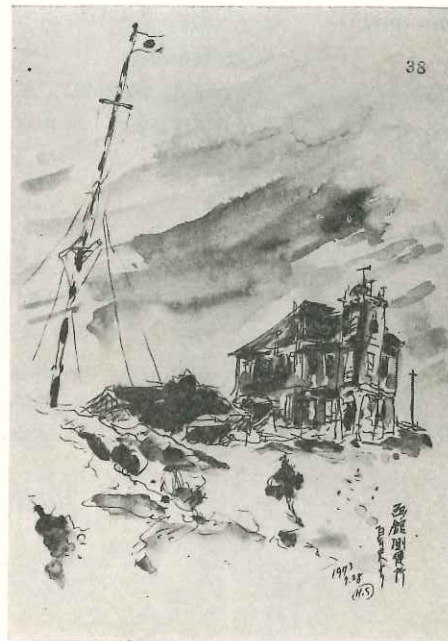
昭和32年10月、全国単一組織の全国気象職員組合が組織されたが、北海道は翌33年、これに加入して全国気象職員組合北海道支部と称した。昭和37年10月には、全国気象職員組合は再度、全気象労働組合と改称する。職場環境の改善、勤務制度等の労働条件問題、特に気象庁特有の人員構成から生ずる俸給、等級号俸頭打ちの解消、および機構改廃の関連問題等を取りあげる一方、日本国家公務員労働組合共闘会議（国公共闘）に加盟し、給与改善のほか、昭和35年の安保闘争に見られるような統一活動も進めている。

昭和40年代の後半からは統一行動で争議行為に入るようになり、その度に処分が繰り返され、昭和46、47年には、人事院に対し処分の審査を請求し、公平委員会の審査が行われた。

昭和49年、従来の支部制から地方本部制の組織替えを決め、同年12月8日から北海道地方本部は函館および女満別（地磁気観測所）を分会として組織に加えたうえ、

新発足している。初代地方本部執行委員長は歴任の経験を持つ佐藤征治である。

（串崎利兵衛）



函館測候所

（図書資料管理室所蔵の写真に基づくスケッチ 東航 坂本 老）